

宮城野会 会員数 192名 (6/1現在)

放送大学と宮城野会の一人ひとりをつなぎます

放送大学 同窓会

宮城野会会報

新緑の宮城学習センター

44号

発行日 : 2022 (令和4) 年6月

発行 : 放送大学同窓会

宮城野会

放送大学宮城学習センター内

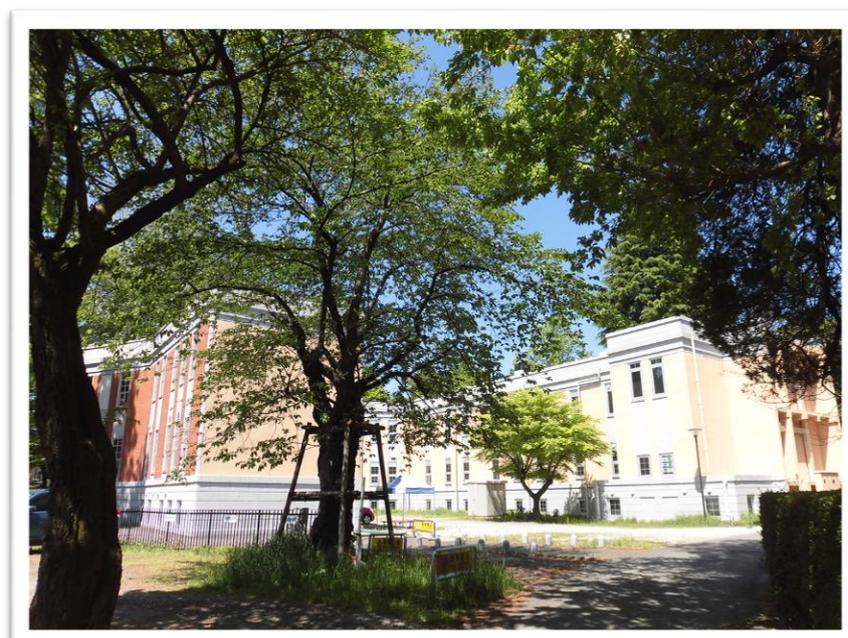
〒980-8577

仙台市青葉区片平2-1-1

TEL : 022-224-0651

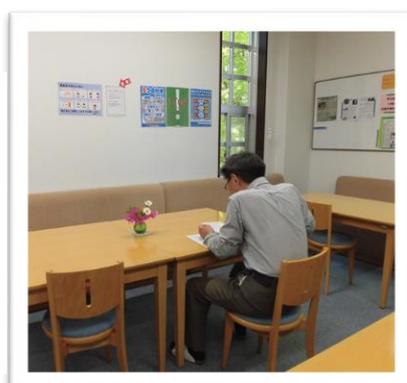
Fax : 022-224-0585

E-mail miyagi-sc@ouj.ac.jp



季節の花が迎えてくれる

学生控室



CONTENTS

2~4 宮城野会 とびっくす

5~7 招待席 『子どもの育ち親の育ち』

客員教授 加藤道代

8~10 交流ひろば

11 宮城学習センターからのお知らせ

12 同窓会宮城野会からのお知らせ



宮城野会

コロナ禍3年目の今年も書面総会

今年こそは、お元気な皆様と対面での宮城野会総会を開催したいと思っておりましたが、今年度も書面での総会にせざるをえませんでした。

105枚の返信ハガキから、退会連絡を除いた103名の方から左の表のとおり返答がありました。よって、第1号～5号議案のすべてが承認議決されました。

	承認	不承認	無回答
第1号議案	103	0	0
第2号議案	103	0	0
第3号議案	103	0	0
第4号議案	102	0	1
第5号議案	103	0	0

会員のみなさんのお声 ー返信ハガキよりー

第8回東北・北海道地区ブロック交流会&宮城野会創立20周年記念事業について

- ◆第8回東北・北海道地区ブロック交流会&宮城野会創立20周年の開催、素晴らしいですね。「片平丁から知る仙臺の歴史」興味が湧いてきました。
- ◆20周年記念誌の「仙臺の歴史」を興味深く拝読しました。明快に仙台のことが分かる力作ですね。
- ◆宮城野会創立20周年記念誌を興味深く拝見しました。私が放送大学に入学したのは2000年4月、宮城野会に入会したのは2003年3月ですが、当時のことが昨日のように思い出されました。宮城野会のさらなる発展と皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。
- ◆宮城野会会長 佐々木様、役員ご一同様、この度は東北・北海道地区ブロック交流会、記念誌発行と素晴らしいご活躍、本当にお喜び申し上げます。宮城野会という組織のおかげ様で、私のもとにも届きました。御礼申し上げます。
- ◆役音の皆様の活動に感謝申し上げます。今回、東北・北海道ブロック交流会の記念講演・論文発表はとても良かったです。また、記念誌もりっぱにでき、発表内容も詳細が記載されて嬉しく読ませていただきました。◆記念誌掲載ありがとうございました。
- ◆立派な20周年記念誌、ありがとうございました。編集された皆様のご苦勞に感謝します。
- ◆宮城野会創立20周年記念誌をいただき感謝の気持ちでいっぱいです。20周年事業の関係者の皆様、本当にありがとうございました。
- ◆「記念誌」ありがとうございました。学生時代を思い出しながら読ませていただきました。
- ◆同窓会の記念誌を送ってくださってありがとうございました。楽しく拝読いたしました。
- ◆宮城野会創立20周年記念誌をお送りいただきありがとうございます。宮城野会の歩みと共に自分の来し方を振り返っています。役員の皆様の精力的なご活躍に奮い立たされる思いです。隅々まで拝読いたします。
- ◆zoom（見るだけでもOK）案内してほしかったです。（大学では実施済み）
⇒コロナ禍での実施方法をぎりぎりまで検討したため周知する機関が短くなってしまいました。

ご意見・提案

- ◆研究発表会など在学生も対象とする企画は、学習センターと共催で行うと良いと思います。
- ◆コロナ禍で急速にWebは広まりました。会員のインターネット環境はどの程度普及しているのでしょうか調査してみてもどうでしょうか。次年度の企画でWeb参加も可能になるといいと思います。⇒検討してまいります。

とびっくす



励まし・感謝の声

- ◆このコロナ禍の中、役員の方々のご活動に深く感謝いたします。 ◆いつも大変お世話様です。
- ◆いつも感謝して読ませていただいています。皆様、お世話ありがとうございます。
- ◆役員の皆様ご苦勞様です。 ◆退任された役員の方々、お疲れさまでした。
- ◆役員の皆様、大変お世話になっております。今後ともよろしく願いいたします。
- ◆同窓会の運営、庶務など多々ご苦勞をおかけしておりありがとうございます。
- ◆役員の方々には大変ご苦勞をおかけし、申し訳ありません。
- ◆宮城野会の運営いつもお疲れ様です。 ◆役員会員の皆様、今年も実り多き一年になりますように。

近況報告等

- ◆機関紙を拝読しながら学生時の頃を思い出しています。高齢になりましたが、また学びたいと思っています。 ◆コロナが収束し、日常が戻ってきますよう祈っています。
- ◆宮城学習センターの宮城野会の様子に触れることができ、嬉しく思います。これからもお便り楽しみにしています。 ◆外出することが減り、郵便受けを除くことが習慣になりました。
- ◆早く会員の皆様と一緒に活動できるイベントに参加できることを楽しみにしています。
- ◆放送大学で学んだことを後悔はしない。交流会ができれば仲間ができると思う。コロナが収束したら皆さん、宜しくネ。 ◆今年度に大学院修士前科性の試験を受けます。
- ◆同期生にシニア世代も多いと思います。おそらく最後の出稼ぎとなる覚悟で赴任しましたところ、このCOVID-19騒ぎとなり、あちらでも2~3か月の日本語学校閉鎖、羽田に帰国して合計3週間の隔離、2年ぶりの日本の冬は寒くて…。ようやく来日学生も増えてきています。
- ◆充実した洗練された素晴らしい記念誌ありがとうございました。学ぶとはどういうことか。学ぶことの喜びを改めてかみしめております。通信教育の先陣を切った感をもつ放送大学が誰でもどこからでも学べるようになったのを待つかのようにタイミングよく放送大学との縁を持つことのできた幸せを感じております。宮城野会の運営もご苦勞のこととお察しいたします。皆さんに敬意と感謝を申し上げます。
- ◆草花をこよなく愛する10才年上の先輩Oさんが、マイカーを運転して来訪してくれました。互いにシングルアゲインの一人暮らし確認しながら、昨今のプーチンの暴挙を断絶し、未来の天下国家を論じてうっぷんを晴らした一時でした。もはや人間同士の斗ではなく、宇宙レベルからこの美しい青い地球を護らねばなりません。86才の近況報告です。

◆ 宮城野会 会員の属性

放送大学学生である	34
他大学学生である	1
学生はやめている	55
無回答	13
合計	103

会員の皆様の属性を参考にして
会報を作成してまいります。

2022年6月 宮城野会会員属性



3/5～6 第8回東北・北海道地区ブロック交流会

& 宮城野会創立20周年記念事業



東北・北海道ブロック交流会と宮城野会創立20周年事業は、新型コロナウイルス感染拡大で一年延期したにもかかわらず、新型コロナウイルス第6波のただ中となり、二日間の予定を一日に凝縮し、会場・手法・内容の変更を余儀なくされました。

宮城学習センター講義室（1）のメイン会場と講義室（2）のサブ会場、放送大学本部の菊川副学長、青森・岩手・山形の各学習センター、同窓会連合会の副会長、Web参加の会員と学生をオンラインで結びました。午前は東北・北海道地区同窓会のブロック交流会、午後は秋永雄一先生の記念講演、我妻健太さんの修士論文、金森安孝先生の講演を直接または画面を通して参加していただきました。サブ会場には、河北新報の情報コーナーに掲載した講演会の案内を見て申し込まれた5名の方も参加され、放送大学と同窓会宮城野会を知らせることに繋がりました。

展示は予定通り3月5日と6日の両日、講義室（3）で行いました。コロナ禍ということもあってか参加サークルは4団体と少なかったですが、『宮城野会20年のあゆみ』を見ていただくことができました。

今回の事業で初めてWebを併用しました。宮城学習センター共催として全面的に配信協力していただいたことをお知らせするとともに感謝いたします。

3/20 学位記伝達式と入学者の集い

ホテル白萩で午前中は学位記伝達式が行われました。受付をした卒業生に宮城野会入会を呼びかけ、お二人が入会されました。同ホテルで午後は入学者の集い。宮城野会の活動パネルを掲示し、新入生のために学習相談のコーナーを設けました。



招待席

子どもの育ちと親の育ち

放送大学宮城学習センター客員教授 加藤道代

宮城野会から寄稿のお声がけを頂きました。様々な場で社会と関わりながら、自ら学ぼうという思いを大事に持ち続ける皆様方にお読み頂くために、他者を育てながら自己を育てる「子育て」について、心理学の立場からお伝えしようと思います。

子どもが成長していく姿は、誰の目にも鮮やかな変化です。身長が伸びたり早く走れるようになるなどの量的な変化はもちろん、深く考えたり他者を思いやるようになるなどの質的な変化を感じることもあるでしょう。

では、それまでは子どもとして「育てられる」立場だった者が、どのように「育てる」者になるのでしょうか。我が子の誕生によって親という歴史が始まるとすれば、子どもが1歳なら親も1歳、3歳なら親も3歳です。最初から100%の親なのではなく、子どもとの相互作用を通じて、少しずつ“親になっていく”と考えてもよいでしょう。言い換えれば、育てながら育っていく大人の姿です。

実際、初めての子育ては、わからないことだらけです。妊娠中の若いカップルは、病院や保健センター等が企画する“両親教室”を利用して、赤ちゃんの沐浴やおしめ替えの練習をし、来るべき子育ての準備をするかもしれません。それは養育スキルの予習として大事ですが、二人で子育てに向かうための心構えの共有や夫婦コミュニケーションとしても重要な意味があります。しかし、本当の意味での“二人の子育て”は、子どもが生まれた後、妊娠中の予想をはるかに超えた、現実の子どもとの向き合いの中にあります。葛藤、試行錯誤、そして支え合いなど、相互に調整する中で、次第に“二人の子育て”が形成されるのです。親としての役割が加わると、それまでの生き方には変化が求められます。それまで打ち込んでいたこと（仕事や趣味、対人関係の持ち方など）は、時間やエネルギー的にも経済的にも、同様の形で続けることは難しくなります。特に乳幼児の子育て生活における制約や制限は大きく、しばらくは子どものケアに自己を投入せざるを得ません。

では、思うとおりにならないことは“停滞”なのでしょうか。柏木・若松（1994）は、親になることにより、①柔軟さや寛大さ、②他人の立場を汲み、人との和を大事にするための自己抑制、③環境問題、児童福祉、教育問題などへの視野の拡がり、④運命、信仰、伝統や文化の受容、⑤自己存在や生き甲斐の気づき、⑥自分の主義、立場や考えを主張する自己の強さなど、様々な人

◆ 「招待席」は、客員の先生に原稿をお寄せいただいています

格発達が進められると指摘しています。制約や制限の中だからこそ、それまでとは違った新たな自己の発達変容がみられるとも言えます。

ところで、ひと口に子育てと言っても、様々な形態の“親子”関係があることを忘れてはなりません。未婚や離婚も含むひとり親の子育て、再婚後の子育て、祖父母や親族による子育て、養子縁組や里親等の家庭的養育など、必ずしも生物学的関係に限らない子育てもあります。現代家族や親子のかたちは様々ですが、子どもの発達にとって重要な養育機能を果たそうとする限り、いずれの場合も、自己を投入することで発達変容が生じることに違いはありません。

一般的に「赤ちゃんや子どもは可愛く子育ては楽しい」というイメージで語られることが多いですが、実際の日常はどうなのかについて、乳幼児期の親子を例にあげてみましょう。乳幼児は、多くの養育ケア（抱っこ、安全配慮、睡眠補助、授乳・離乳、体重管理、身体や衛生管理など）を必要とします。初めて子育てをする親は、言葉のない赤ちゃんの快・不快を気遣いながら、答えのわからない試行錯誤を休みなく繰り返します。親が「ようやく対応に慣れた」と思うと、子どもは次の発達段階に入り、それまでの対応では効かなくなります。子どもはいつも親を未知の領域に導くかのようです。

また、子育ては養育ケアだけではありません。成長に伴い、社会の中で生きていく力も求められます。自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの自分自身に関する力や、協調性、共感する力、思いやり、社交性、道徳性などの他者と関わる力を身につけていくのです（遠藤、2018）。こうした力を育むには、子どもが自ら主体的に環境にかかわる姿を尊重する必要がありますが、「しつけ」のことも頭におかなければならない親にとって、それは必ずしも容易ではありません。

2歳ごろの自己主張の時期は、親の言うことをきいてくれないため“イヤイヤ期”と呼ばれることがあります。出来ないのに自分でやりたがる、制止されたり思うとおりにならないと大泣きして抵抗する、父親が対応しようとする「ママじゃないとダメ」と言ってぐずる、父親は無力感を感じ、母親はぐったり消耗する…。「今だけのこと」と思われるかもしれませんが、親にとっては毎日のことです。親も泣きたくなくなるのです。

親にとって子どもはかけがえのない存在ですが、子育ての拘束感や責任感から、心身の疲労、不安、抑うつ、イライラのようなネガティブな感情が生じていても不思議ではありません。余裕がなく思う通りにならないことがあれば、誰でもイライラするものですが、子育ても例外ではないのです。近年は、少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化など、子育て環境が変化し、SNSの普及により情報収集方法も大きく変わりました。親が戸惑い、不安や心配、苛立ちや落ち込みを感じた時、それを自分の中に抱え込んでしまうことが心配されています。

子育てには支援が必要です。子どもたちには遊びとふれあい、親には親同士のつながりや専門職の親身なかかわり、地域の絆が求められるでしょう。身近なサポートによって心身に余裕が生まれ、子どもの可愛さや子育ての楽しさが感じられること、また、子育て中であっても、社会と

招待席

つながる個としての生き方が尊重されることが目指されます。子育てに行き詰ったら、決してひとりで抱え込まず、周囲の人たちに相談したり、地域や公共が用意する子育て支援サービスなど家族外の力を借りてよいのです。子どもに安心を与える親になるには、親に安心を与える社会が必要です。

コロナ禍が3年目に入りました。親密な接触や関係性が重視されるはずの子どもの発達環境に、“距離”や“非接触”が求められる事態が長期化しています。コロナ終息を待つ間に、乳児は幼児に、幼児は児童になっていきます。感染対策によりコロナ前の子育て支援を踏襲することも大事ですが、それに加えて、現状に即した新しい支援が求められる試練の時期と言えましょう。

引用文献

柏木恵子・若松素子(1994)「親になる」ことによる人格発達：生涯発達の視点から親を研究する試み 発達心理学研究 5(1), 72-83.

遠藤利彦(2018)「非認知能力」って、どんな力？(インタビュー)『すくコム』(NHK エデュケーショナル) <https://www.sukusuku.com/contents/qa/218292>

〈プロフィール〉

放送大学宮城学習センター 客員教授 加藤道代(かとうみちよ)

仙台市出身。

専門は生涯発達心理学、臨床心理学。

研究テーマは、親の発達(親になることによる発達)、

コペアレンティング(共に子育てをすること)。

心理臨床実践は、子どもの発達支援、親支援、子育て支援、

震災支援、キャリア支援など。

公認心理師、臨床心理士。東北大学名誉教授



2021年度卒業式に出席して

渡邊 嘉男

令和4年3月20日・ホテル白萩、23日・国技館で放送大学宮城学習センター及び本部の卒業式が行われ、双方に出席しましたので概要をご報告します。

式次第の内容はほぼ同じでしたが、本部の方は式順の組み立てが少々異なっており、また式次第は国歌演奏・来賓紹介・卒業生修了生の謝辞が加わり、さらに来賓祝辞は文科大臣・総務大臣（いずれもリモート）・その他来賓とやや数多くありました。

卒業式のポイントは学位授与にあるのは当然ですが、それぞれの長による告辞または式辞はもっとも重きを置いて拝聴すべきものでありましょう。

高橋満宮城学習センター長は「放送大学は仕事と学の両立はできるが卒業は難しいなかを修了・卒業された。コロナ禍のように世の中は変化が激しく何が起こるか分からないが、この日常に対応するのは個人の力が基本であり、自分自ら切り啓いていくしかない。卒業する方々が在学中に培った**柔軟な事象対応能力を以て希望を旨に人類社会の未来を啓く行動すること**を期待する。」と修了生・卒業生を激励された。また岩永学長はビデオ・メッセージで「**Someone watches everyman！**きっと誰かが視ているのであり、**明けない夜はない**」とのエールを送ってこられました。

国技館で岩永雅也学長は一連の式辞の中で今後への希望として「佐藤一斉の教えを体して長く研鑽を続けてほしい。」と述べられました。佐藤一斉（江戸後期の儒学者）の教えとは「三学戒」『言志晩録』第60条「**少にして学べば則ち壯にして為すことあり、壯にして学べば則ち老いて衰えず、老にして学べば則ち死して朽ちず**」であると受け止めました。

今回卒業式の要点のみを記しましたが、式はいずれも厳かな雰囲気の中で、それぞれの会場の特徴とも相まって何か安堵に満ちた満足感が漂う感を呈していました。また学長並びにセンター長のお話も肝に銘ずるところがありました。

顧みると一昨年はコロナ禍のため急遽卒業式は中止となりましたが、今回は無事举行されたので、3月16日地震による新幹線の一部不通のため上京はバス利用となったものの、会場が国技館とのことで出席に踏み切りました。

最近になり同窓会連合会からバッジ一組（2個）を頂戴し、出席の満足感が増すとともに、今後は「今日一日一生涯」（出雲幸五郎『ひびきあいカレンダー』）を旨として何とか研鑽を重ねていくように努めていくつもりです。

子どもへの心の寄り添い旅を続けて！ ～東日本大震災からウクライナ紛争のいま～

放送大学大学院文化科学研究科臨床心理プログラム学科 令和2年修了 伊藤克秀

○「ママ・・・ママ・・・ママはどこ・・・エ～ン、エ～ン」

東日本大震災直後、私は沿岸部の保育者や幼稚園、避難所などで、仲間と心のケア活動を行っていた。上はその時のある保育園での光景。被災後、その保育園ではすぐに全員を2階に避難させた。そして保護者の迎えを待った。夜になり、朝になり、三々五々、親は迎えに来た。しかしA子ちゃんのママはなかなか迎えに来なかった。A子ちゃんは、2階でじっと待ち続け泣いていた。会えたのは、3日後の夕方だった。母親も瀕死の状態で助かり駆け付けたのだった。A子ちゃんは、その後、2階には上がらなかったという。

○姉は言った。「この子、あだ名は九死ちゃんというんだよ」

ある避難所で会った姉弟・・・姉は当時小4、弟は1年だった。避難所で、心の解放のためによくお絵かきを行っていた。模造紙を広げたところ、弟は紙いっぱいを青く塗り、けしつぶみたい僕が何かにすがっている姿を描いた。そして姉弟はポツポツと次のように話した。通っている学校に津波が押し寄せてきた。体育館が地区民の避難所になっていたが、波はあっという間に体育館の中まできた。誰かが「幕（緞帳らしい）にすがれ！」と叫んだ。弟は、夢中で幕にしがみつき、やっと命拾いできたという。私は、あだ名の由来を知って、実に尊い話だと思った。

○Y君「逃げた学校の4階に行って、天国のママにお詫びするんだ！」

私の修士論文のテーマは、「被災児童の不安を軽減するための方法の検討」である。その根底には、被災した子供たちの悲しみ、苦しみ、PTSD状態（侵入、回避、過覚醒、認知と気分の否定的変化など）などの現状を毎日目の当たりにしていたからである。A君は保育所年長で被災した。母と弟は帰らぬ人となった。A君は、被災前日ころ、朝に母と口げんかし、「ママなんかいなくなればいい」といったという。A君とは小3から6年までスクールカウンセリングでお付き合いをした。赤ちゃん返りもあったし、母への悔恨の気持ちも吐露した。また悪夢にうなされることもあった。あるとき、「逃げた学校の4階に行って、天国のママにお詫びするんだ！」それは、エクスポージャー法（暴露法）で、子どもに推奨できる方法ではなかった。しかしY君の決意は固く、関係者と協議して実施したのだった。避難した4階で「ママごめんなさい」と言っただけ「天国でいつでもママは守ってくれるんだ」と思ったという。その後、悪夢は現れず、落ち着いて中学校に巣立っていった。家族を失った喪失感や悲嘆観の回復には時間がかかり、容易ではないが、誰かが寄り添い、話を聞いてあげられると、心の回復にとって少しはよいかもしれない。それが論文作成とスクールカウンセラー実践で気づいたことだった。

ウクライナ紛争のニュースを見るたびに子どもの悲痛な表情に心が痛む。しかし、子どもの心はいつも置き去りである。言えない、表現できない、ひとりで生きられないなど、か弱い子らにこれからもどこかで寄り添い続けていきたいと思う。

学ぶことと宮城野会

山中 政裕

放送大学への入学は、学位取得、専門分野の勉強、学びなおし、生涯学習等、様々な理由で入り、そして卒業している。その勉学過程は通信制という観点から並々ならぬ粘り強さが要求される。そのためにも同窓会の役割は大きなものがある。学生同士の交流、サークル活動などがあげられ、現役学生に対しては勿論のこと、放送大学の存在と良さを市民社会にアピールすることなども役割を担っている。超高齢社会での生涯学習の大切さ、社会人の中での専門領域の学習、企業内での人材育成への活用など多々あげられる。

何かの本で紹介されていたが、年を取るほど学びは必要であるという。その理由は、年を重ねると、「これはこういうものだ」という常識が積み重なる。しかし、常識は時代と共に変わるものであり、経験からくる決めつけは現実を無視した妄想にしか過ぎない。それなのに「こうあるべきだ」と頑なになってしまい、現実に対処できなくなる。ということであり、なるほどと思った。学びは、常に新しい情報や理論を吸収し、そのことが若さと物事への柔軟な対応ができるのではないかと、考えている。

学びの手法は多様であるが、放送大で言えば現役で学ぶことは勿論であるが、卒業後の同窓会活動も引き続きの学びの機会と言える。3月に東北・北海道地区ブロック交流会と併せて開催された宮城野会創立20周年記念事業に参加した。コロナ禍で参加者は少なかったが、私は講演会と修士論文発表会、そして交流会に参加して、充実した時間を過ごさせていただいた。その同窓会であるが、卒業した後の各々の目的達成に向けた情報ネットワークと放送大学をさらに充実したものとするための側面から支援できる組織としても重要であると思う。

なにせ放送大学の学習センターはすべての都道府県にあり、なおかつ国立大学をはじめ地元の大学と強い連携のもとで運営されていることがすばらしい。

放送大学宮城学習センターからのお知らせ

【 2022 (令和 4) 年度 10 月入学生募集中! 】

■教養学部 ■修士選科生・修士科目生 出願受付は以下のとおりです。

第1回募集：2022年8月31日(水)まで

第2回募集：2022年9月1日(木)～9月13日(火)

募集要項は放送大学ホームページよりご請求ください。



資料請求 QR コード

大学案内・入学相談会

日時：2022年7月30日(土)、8月20日(土)

①10:00～ ②11:00～ ③14:00～ ④15:00～

事前予約制。ご希望の時間①～④をお知らせください。

会場・申込先：宮城学習センター TEL022-224-0651



入学相談会申込 QR コード

【 公開講演会 (ハイブリッド形式) のご案内 】

日時：2022年8月27日(土) 13:30～14:30 (受付 13:00～)

講師：東北大学名誉教授

放送大学宮城学習センター客員教授

佐藤 伸宏 先生

演題：「未定」

定員：15名(宮城学習センター講義室)

：50名(オンライン配信〈Zoom〉)

会場・申込先：宮城学習センター

佐藤先生のご専門は

「国文学・比較文学」です。

詳細が決定いたしましたら、宮城学習センターのHPに掲載いたします

【 宮城学習センター学生による研究集録の配布 】

「宮城学習センター学生による研究集録」は、宮城学習センター所属の現学生・元学生が執筆した論文を集録したものです。

これまで、創刊号、2号、3・4号合併号、5号を刊行し、宮城学習センターで配布しております。郵送配布もしておりますので、ご希望の方は、以下①②を学習センターまでお送りください。

①任意様式にお名前・ご連絡先・ご希望の号を明記

②返信用封筒(角2封筒、宛名明記、送料分の切手貼付)

<送料> 創刊号1冊場合、3・4号合併号1冊の場合 180円

2号、5号1冊の場合 215円

2～3冊の場合(全号希望される方など) 310円



最新号(5号)

同窓会 宮城野会からの お知らせ

令和4年度 年会費納入について

《年会費納入方法と手数料の案内》

- ・ ゆうちょ口座名 放送大学同窓会宮城野会
- ・ 年会費 **1,500 円**
- ・ 記号 02230-0 ・ 番号 47188

同封の振込取扱票（青紙）を使い、最寄りの郵便局の ATM・窓口で振込みをしてください。

ご本人のゆうちょ口座から ATM で送金する場合は、暗証番号が必要となります。

- ① 振込取扱票で現金支払い
- ② 振込取扱票で本人ゆうちょ口座から送金
- ③ 宮城野会口座へ、ゆうちょ口座から送金

	ATM 手数料	窓口手数料
① 現金で支払い	262円	313円
② ③ 本人口座から宮城野会口座へ	152円	203円

* 前年度までの会費未納の方には、合計金額を記載しております。振込していただきま

お尋ねします

会費の口座に「ハウソウダイガクバンザイ」と書いて、令和3年12月29日に1500円を振り込んでくださった方がいます。お心当たりの方は、宮城学習センターまでお名前をお知らせください。

2022（令和4）年度 同窓会宮城野会役員

会 長：佐々木 美枝子
副会長：斎 藤 けさよ
事務局長：佐々木 幸 江
会 計：磯 部 祐 子
理 事：竹 内 久 子
理 事：二 郷 成 子
理 事：秦 美枝子
理 事：山 中 政 裕
監 事：二 郷 成 子

《宮城野会サポーター》

- ・ 鶴 殿 美 香さん
- ・ 大 場 信 子さん
- ・ 小野寺 美恵子さん
- ・ 大 黒 福太郎さん
- ・ 菅 原 弘 美さん
- ・ 菊 田 容 二さん
- ・ 今 野 隆 彦さん

* サポーターに

なりませんか

会報発送作業や行事の時に
お手伝いして下さる方を
募集しています。

ご冥福をお祈りいたします

光野 清男 さん
守 文一 さん